

東書書  
東書書  
東書書

近江の國なる覺成寺の住持高尚房大と云ふ者大谷の

法の學に造るる者なりしを以て其の法を傳へしむる

事も亦るる事ありやとて其の法を傳へしむる事あり

々也とて其の法を傳へしむる事ありとて其の法を傳へ

しむる事ありとて其の法を傳へしむる事ありとて其

の法を傳へしむる事ありとて其の法を傳へしむる事

ありとて其の法を傳へしむる事ありとて其の法を傳



たまひいゝさしつかへい三十一文字のやがらうたもす  
のまゝなるあるは世の月をよよへあるはたう法  
みこの業のそよみ出るとたかたきたるは法の  
ひびくれはやまみちの道の深うけしほいも  
やらまゝうちまきんまよたのう法の味口うか  
ひ讀傳乗持法編の因縁とやか人のうり書  
なまこころたをまうう宗祖のこころもかなを

さらんやとひめなちうと思ひ付るぬさきは  
あまこの歌巻を世にひろうせえやとこの火と  
このころにむ様よなるこころなまゝに  
おまはたまのいゆるかゆせのたまに  
きくまらうまかもの念今十年の昔に  
こひせなまうかひに思ひくもなま  
まのたまにうのうにまらまげからしむるま



明治十一年乙卯年乃九月

連城

序云  
遠水鏡耕

正信偈句題和歌

帰命三尊の善也来孝无不可思议也

世に於ては善の如く仰ぐべきなり歌に詠むべき

法苑善薩因位時在世自在五佛所

亦終て空寂清む山松の生るる山松を有るる

親見諸佛淨土因国土人天之苦悪

空なる空の如く如くの一機よるる空の空なる

建立善と殊勝殿



天竺のよき法——その如きすべしわんわんわんわん  
超度希有大弘誓

とりえつる法の總の法よるるすべし希らるる誓也  
五劫思惟之授受

ては女たるる法よるるすべし希らるる誓也  
重誓名希願十方

光よるる法よるるすべし希らるる誓也  
普放希誓希願十方

清淨歡喜智慧光不取難思無稱定

超日月光照蓋制

其光の中より光よるる法よるるすべし希らるる誓也  
一切羣生業光臨

ありとあるよりの法よるるすべし希らるる誓也  
本願名希正定業

寧靜多は佛の種とありぬすべし希らるる誓也  
至心信樂教為因



二、  
成等覺證大涅槃必至滅度級成就

如來所以無出世說諸陀本級海

五濁惡時群生海信如來如實言

法叢一念喜愛心

不致煩惱垢涅槃

凡聖逆誘齊回入

如衆水入海一味

攝取心光常照護



たらしむるの親まゝに移るるをいふは、何れもいふに

己能破無明闇貪嗔慢之雲霧

常獲真實信心天

夕月とてまわらぬ心は、いかにあつらふか、秋の霧の

譬如日光覆雲霧之下明無闇

朝の日の光をいふは、いかにあつらふか、秋の霧の

獲信見敬大慶喜

きく得るる心の、いかにあつらふか、秋の霧の

即拔超截五惡趣

生死の其流にまよはぬ心とて、いかにあつらふか、秋の霧の

一切善惡凡夫人

風をまよはす流の、いかにあつらふか、秋の霧の

闍信如来弘持教

いかにあつらふか、いかにあつらふか、秋の霧の

佛言廣大勝解者

いかにあつらふか、いかにあつらふか、秋の霧の



是人中答陀利毒

かくもき佛の法をたのむ人の身なる道なき

弥陀佛本願念仏

この心よ世に弥陀佛の本願の法をたのむ

邪見慢慢悪念生

これの心をたのむ人の身を替へたのむ

信樂受持甚以難

西へてのむ人の身を替へたのむ

難中之難無過也

かくもき佛の法をたのむ人の身を替へたのむ

印度西天之福家中夏日城之高僧

聖大聖無世正意明如来本誓願機

释迦如来楞伽山為定告命當乙生

新樹大士出於世

かくもき佛の法をたのむ人の身を替へたのむ

悉能摧破有先見



夫のうらやまなきつゝあつて居る一は入道なるものありては  
 宣鏡大乗无上法證歎善地生安樂  
 上のむす力車のとらふ先づのつゝあつてのこゝろに  
 影示難の陸路若信樂易の水道樂  
 初ま如く少の車引のつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 悟志強陀佛本教  
 勇のつゝあつてのつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 自然即時入必定

うつゝあつてのつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 唯能常稱如来難在報大恩弘授恩  
 の尋ねるつゝあつてのつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 天親菩薩造福説  
 夫のつゝあつてのつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 降名無礙光如来  
 昔今かゝるつゝあつてのつゝあつてのつゝあつてのつゝあつての  
 依修多羅其真実



海の中より一ツ水も如く水華を以て海を飾るを以て一ツ  
度由本教力回向  
そのれより向ふべきを擇むるは其の如くは其の如く  
為度群生彰一心  
強信たつては其の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
入功位大受法  
此の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
必獲の大會衆數

一ツ水も如く水華を以て海を飾るを以て一ツ  
得至蓮華世界  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
即修真如法性身  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
遷煩惱現神通入生死國亦在化  
満山を以て其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
中師是等梁天子常向夢中善菩薩禮



方より取捨ありて和冠の宗の修めりてまじりて  
三尊源支授淨土發覺他經為樂邦

梵音くし文の烟也一きりて西行おのりて  
天親菩薩論註解

たしあ知一は心る花の細く見えて文より  
報土因果影持致

多し本と昔の経よりしるすは信の指する由業  
往還廻向由他力

心は信よりして信は心よりして信の力よりして

西定之因唯信心

の心よりして信は心よりして信の力よりして

惑深凡夫信心叢

ふりて信よりして信は心よりして信の力よりして

淨知生死且涅槃

生死の爲に申して信は心よりして信の力よりして

必至量光明土法有能生皆善他



兜の鉢のゆふよふのまゝのちのちの関の又思ふ毎  
道線決至道難修

よけゆく道の事の時いかに思ふの思ふは  
唯明浄土可通

たゞのちのちの門の産のちのちのちのちのちのち  
善善自力聚勤修

果のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
因信徳辨勤中務

やふまゝ人控のちのちのちのちのちのちのちのち

云不三信誨慇懃

初のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

像末法滅同悲引

をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一生造悪値弘控玉安善界修好果

はくくはくくくくくくくくくくくくくくくくくく

善導獨明の正書



三粟のひかりわけゆく三佛のまをさやまらるる人そも  
珍哀定散よ逐悪

月の本回一はと思ふも此の木の枝 答は法草一  
光明名辨系因縁

心むとんをくはし 時の夜は月には影あり 時の光風  
并入本經大智海

和の京打歩くこと神は波の中まきし 龍もまきし  
行者正受き別心

真意を以て心くつとて 佛のまらぬまをいふなり

芙蓉一念お庭は興 草提等獲三忍

ひれぬ ままのけしからふ 昔の人と回一はそ

即證法性之常樂

急もまき形もまきぬ 佛の源もまきぬ 中もまきぬ

源信度開一代 盡偏海安 答効一切

夏衣ひくよををりし 中もまきぬ 人もまきぬ

考難執心判 渡源結化二土正辨立



孫のたのむふりた心のきりきりして浄土の奥に  
極重悪人唯稱仏

玉きりる命よのきむ罪人をゆきととめおのれをりり

我亦在彼拵百中煩惱障眼雖不見

大悪多健者照我

なごりしと目よこそみぬ江の魚のひきよる命をらん

本師源空明佛教

黒谷の松乃鹿ころり江の魚をゆきととめおのれをりり

憐慈善悪凡夫人

凡夫人のきりきりして浄土の奥に

真宗教語無片出

時をりきりし江の魚をゆきととめおのれをりり

蓮持本願弘悪世

よもふりし江の魚をゆきととめおのれをりり

還来生死輪轉家決心於情為所止

果もたきりし江の魚をゆきととめおのれをりり



速入寂靜多為樂必以信心為能入

沖舟思入海入海の風の所をハきりりり

弘經大士宗師等極濟多遠極漏惡

幾之巨法の舟長くくし苦死海の果なきれハ

道俗時衆共同心

海のあしを共なきえし法のちかしくおぼさたのうりり

唯可信如高修説

たけしけせに修しし文をく建するまじりあはれ

天保十一年庚子秋

釋々々

正信偈句類和歌尾



明治十一年十一月廿二日 出版御届  
同 年 十二月 刻 成

滋賀縣平民

美園超流

近江國神崎郡福堂村二百廿六番地

山口縣平民

赤松連城

周防國都濃郡德山村九百九十番地

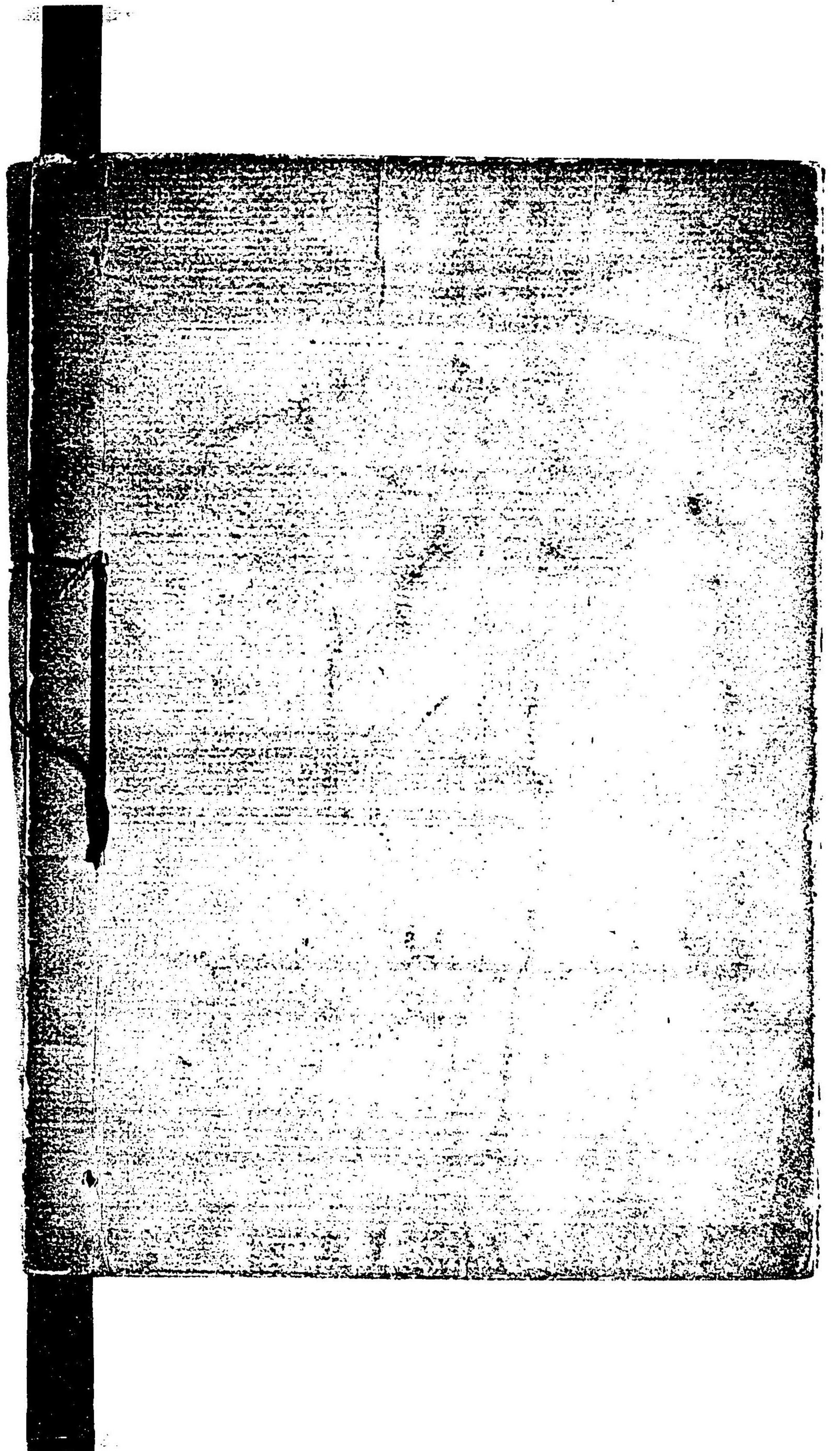
京都府下京廿三區異町七百四番地寄留

出版人

183

217







183

217

東 京 圖 書 館

一 冊	三 七 號	五 八 架	三 九 函	歌 合 類	和 書 門
--------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

018093-000-0

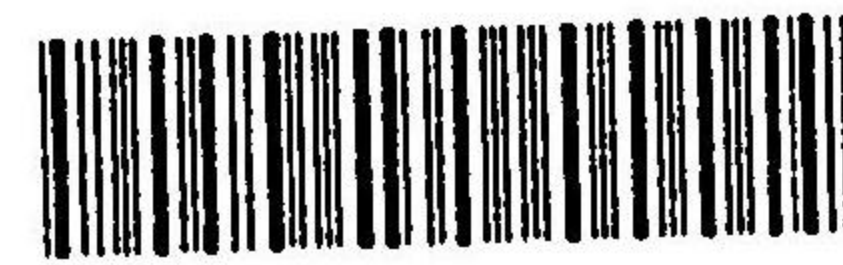
183-217

歌和題句偈信正

著 / 然超

M11.12

ABF-1173





183

217

東 京 圖 書 館

和書門

秋香類

一函

五架

二七號

一冊